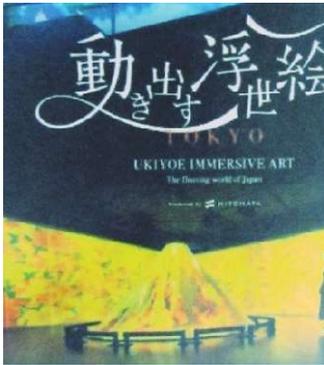


「動き出す浮世絵展 TOKYO」

寺田倉庫 G1 ビル（天王洲） 24.12.21～25.03.31



本展は、「葛飾北斎」「歌川国芳」「歌川広重」「東洲斎写楽」「歌川国貞」などの浮世絵師たちの作品「300点以上」をもとに、3DCGアニメーションやプロジェクションマッピングなどを用いた「デジタルアート作品」として再現し、立体映像空間を作り出す「体感型デジタルアートミュージアム」である。

展示作品の浮世絵の数々が、最新のデジタル技術によって動き出し、来場者は作品の中に入り込んだような感覚を体感することができるため、「浮世絵」を新しい形で楽しむことが可能というユニークな試みである。

展示会場は、テーマごとに分かれた異なる映像空間で構成され、世界から「ジャパン・ブルー」と称される藍色の世界を表現する「藍」や、名所絵などを取り上げる「眺」、美人画の世界を巡る「麗」、季節の移ろいを表現する花鳥風月の空間「彩」、触って楽しめる「遊」をはじめ、「瀧」「豪」「錦」に「雅」の9つの空間が登場する。又、江戸時代に刷られた著名な「浮世絵」や、「複製版の浮世絵」の展示、浮世絵の歴史、江戸文化、浮世絵師の解説もあるため、時代を超えて世界を魅了し続ける浮世絵の傑作の数々が、ダイナミックに活動する期間限定の「イマーシブ」（没入型）展覧会である。

